

整流効果を意識したエアバッグは個性的でスポーティな印象だ。



話題のハーネスを
スミからスミまで徹底チェック!

小貝隊長の

ハーネス
研究所

研究所のモットーは、微に入り細に入り!
その特徴や使い勝手はもちろんのこと、
メーカーのコンセプトやこだわりも加味して
ターゲットとするハーネスを丸裸にしちゃうぞ!

リトマ

- カテゴリー：オールラウンド
- プロテクション：エアバッグ＋ムース
- 安全装置：Tバックル
- 重量（カラビナ含む）：3.9kg（L/XL）
- サイズ：S/M（155-175cm）、L/XL（170-185cm）
- カラー：ブルー、レッド、ライム、オレンジ
- 付属品：アルミカラビナ
- 価格：¥88,000

株式会社 ムエッティ

問い合わせ TEL: 04-7107-1701
<http://www.sky-sports.net/>

安全性と飛行性のバランスを追求する 定番メーカーの安全重視ハーネス!

独自の路線を突き進む世界企業
アプコアビエーション

パラグライダーはヨーロッパ発のブランドが圧倒的に多いが、世界各地に名立たるブランドは存在する。そんな中でも脱ヨーロッパの旗頭がイスラエルに本社を持つアプコアビエーション社だ。旧ソビエト連邦出身のアナトリー・コーンがハンググライダーの製造販売を経て1982年に設立。当初はヨーロッパブランドの製造工場だったが、次第に頭角を現し、89年に最初のモデル「スピードスター」をリリース、オリジナルブランドをスタートさせた。

パラグライダーの世界的なブームに乗り、2000年前後には世界ナンバー1のポジションを築き、ヨーロッパ外のブランドとしてジン、ソルと並ぶ存在となっている。アプコの成功なくしては東欧諸国のパラの興隆もなかったに違いない。

アプコのパラグライダー製造には独特の哲学がある。安全性と飛行性のバランスを追求するのはメーカーとして当然のことだが、さらに丈夫で寿命の長い製品作りを目指している。キャンビーに関して、3年間で250時間の保証を行っているのもその表れだ。

ハーネスも自社工場生産され、現在はコンペ用ポッドハーネス「フレード」、ムースプロテクションのオールラウンドハーネス「スパーク」、軽量エアバッグハーネス「チェアバッグ」、スクール講習用ハーネス「ファースト」、それに新しく加わったエアバック＋エアフォームのダブルプロテクションハーネス「リトマ」の5タイプを揃えている。

多くのパラグライダーメーカーの中にあつて、アプコは決して派手な存在ではないが、世界中で広く愛されている定番ブランドとしての独自のポジションを築いている世界



1 アルミ製の軽量セーフティバックルを採用。**2** レグベルトにもアルミ製バックルを使用し軽量化に貢献。凹側にサポート用のパッドを装備するなど細かな配慮が嬉しい。**3** スループタイプのショルダーベルトによりハーネスとの一体感が向上。摩擦の多い部分はカバーされメインのベルトを保護している。**4** スムーズなエア流入を確保するため大きなエアインテークが正面に取り付けられている。**5** エアバッグ部分を真上から見ると、整流効果を意識したデザインがわかる。リフレクターラインがアクセントになっている。**6** シートバックは厚めのスポンジとメッシュ素材を使用、背中が蒸れないようパッド配置を考慮。サイドパネルもクッション性を高めソフトでしっかりしたサポートを実現している。**7** Tバックルの安全装置。チェストベルトの調節幅は44-63cm(L/XLサイズ)と広めの調節幅を確保する。**8** レスキューパラシュートは主流のシートプレート下に配置している。**9** アルミニウム合金製のスチュバイ・フライカラビナ(重量95g、縦方向強度22KN)が標準。**10** ショルダーストラップから首筋にかけて厚手のスポンジ素材を使うことでフィット感を高め、不快な摩擦は皆無だ。**11** 逆転の発想? 通常芯のあるコンテナフラップを廃止、ナイロン地だけで形成したことで引っ掛かりのないスムーズな引き出しが可能になった。**12** ロングフライトの必携装備になっているハイドレーションシステム用のホース取り出し口を左肩部分に装備する。**13** エアバッグに加え最大厚15cmのムースタイププロテクションも標準装備。ムースプロテクションは取り外して使用することも可能。**14** シートプレート(L/XLサイズで幅36cm、奥行き37cm)は合板タイプが標準。オプションのカーボンシートプレートを使えば-300gの軽量化が可能。

エアバッグとムースを組み合わせ、安全性をアップ
 現在、ハーネスのプロテクションは、エアバッグタイプとムースタイプに二分されている。エアバッグタイプはハーネスを嵩張らず軽量化できるが、離陸直後などエアバッグ内に十分にエアが流入されていないと肝心の保護機能を十分に発揮できない。一方、ムースタイプはどんな状態でも十分なプロテクションを発揮できるが、ハーネス自体が高張ってしまう傾向にある。

一長一短の両者の関係だが、そのメリットだけを融合させたのがリトマの基本コンセプトだ。もちろんエアバッグだけでも良いというユーザーは、ムースプロテクションを外して使用することも可能。重量3・9kgは併用タイプのハーネスとしては合格点、合板のシートプレートが標準装備だが、オプションのカーボン製を選べば300g減(3・6kg)が可能だ。

安全装置はTバックルタイプで、独立したレグベルトともにオリジナルのアルミ製軽量バックルを使用している。ベルトのレイアウトはショルダーストラップにスループを採用しているので、上半身の動きにハーネスが追従する一体感を味わうことができる。バックパネルは、厚手のメッシュ素材をプロック毎に使い分け、フライト中の蒸れを防止。ハーネス内側の両サイドに取り付けられている2本のプラスチック製の中空バーがバックプレートの適度な張り具合を生みだし、上半身のフィット感をもたらしている。

リトマは、ファーストハーネスとしてビギナーが使っても安心だが、ホームエリアをベースにしながら時々海外フライトを楽しむシンプルで安全性の高いハーネスを探しているパイロットにも推薦したいハーネスに仕上がっている。